

淡路島のカミキリムシ追加(V)

1. ヨコヤマヒメカミキリ *Ceresium holophaeum* Bates

1978年7月26日、先山西茶屋の横で燈火に飛来したものを1頭採集した。

2. ヒメナガサビカミキリ *Pterolophia leiopodina* Bates

1978年7月8日、先山西茶屋の2階で燈火に飛来したものを1頭採集した。

3. ニセリングカミキリ *Oberia mixta* Bates

1978年6月11日、洲本市安乎町の筆者の自宅付近で、スイカズラの葉上に静止していた本種を1頭採集した。

以上の3種は淡路島から初めて記録されるものであり、標本は筆者が所蔵している。

(堀田 久)

クロツバメシジミ調査レポート

広 畑 政 己

兵庫県に於けるクロツバメシジミの分布は、赤穂市、竜野市、姫路市、加西市、小野市、神戸市道場町、山崎町、一宮町、上郡町、三日月町など西播地域を中心に、瀬戸内側の各地に広く点在している。

これまで本種の記録がある産地での食草は、ベンケイソウ科のツメレンゲが確認されており、他県から報告されているタイトゴメ、マンネングサからは、まだ未発見である。

県下のツメレンゲの自生地は、山野に残された数少ない岩場か、古い町並が残る家々の屋根瓦などにみられる。前者が一宮町、上郡町、道場町、小野市で、後者が赤穂市、竜野市、姫路市などである。

筆者は、県下の古い町並が残る篠山、三木、小野、道場などの市街地や、篠山、平福、室津などの調査に当たったが、これらの町の屋根瓦からはツメレンゲは発見できず、後日明石市、洲本市などにもツメレンゲが自生することを知り、1978年10月22日に当地を訪れた結果、ツメレンゲを双方で見ることができた。

洲本市では、本町1丁目、同5丁目、馬場町甲、海岸通り2丁目、細工町、山手2丁目などかなり広い範囲で多数見ることができる。その密度は、クロツバメシジミが生息する赤穂市、竜野市に匹敵し、本種が生息するに足りるものである。

今の度の調査では、ツメレンゲは確認できたものの、ツメレンゲが多数生える高い屋根の上に事情があって上がれず、残念ながら本種の生活史全プロセスの内、いずれのステージでも確認はとれなかった。

県下で屋根瓦にツメレンゲが自生するところでは、すべてクロツバメシジミが生息していること(明石市は未調査)。淡路島を取り巻く、兵庫県瀬戸内側、岡山県瀬戸内側、小豆島、高松市、和歌山県紀三井寺、有田市、箕島などにも本種が生息している(藤岡知夫、1975)ことなどから、淡路島に本種が生息していても不思議ではない。今後同学諸氏の調査を期待したいものである。

尚、他県で発表されている食草の1つに、タイトゴメがある。(紅谷進二、1971)によれば、県下にも海岸地帯に分布しており、淡路島では、江井町、沼島(古い町並もある)阿那賀、福良などが報告されている。ツメレンゲの産地と併せて調査を進めたいと考える。

本稿を草するに当り、ツメレンゲについて御教示いただいた湯浅 史氏、今の度の調査に御協力下さった尾崎勇氏に、未筆ながらお礼申し上げます。

参考文献

藤 岡 知 夫 (1975) 日本産蝶類大図鑑 講談社(東京)

紅 谷 進 二 (1971) 兵庫県植物目録 六月社(大阪)

淡路島に於けるウラナミシジミの 越冬について

広 畑 政 己

淡路島では6月から10月にかけて、各地で本種の成虫が見られ、12月下旬にも成虫の飛翅が確認されたことがある(登日邦明、1974)。しかしまだ土着の確認はされていない。

本種が越冬するためには、冬期にもマメ科植物の花が途絶えることなく咲いていること、降霜